

横浜市立本郷特別支援学校

学校評価報告書 (令和2年度)

A:十分達成 B:概ね達成 C:努力必要 D:改善必要

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①個別の教育支援計画の新書式への移行を引き続き行う。また個別の指導計画の目標設定のプロセスが定着できるよう取組を行い、指導の充実を図る。②主題研で「根拠のある授業づくり～実態に沿った授業展開」をテーマに学校教育目標や児童生徒の実態把握を基に授業づくりの研究等を行う。	①例年とは異なる日程になったが、個別の指導計画の作成の手続きについてアナウンスを行い、目標設定のプロセスを共有を行った。また校内の作成マニュアルを適宜、変更を行った。②主題研で「根拠のある授業づくり～実態に沿った授業展開」をテーマに指導方法や授業の組み立ての改善を行った。	A
健やかな体	①一人ひとりの子どもの実態に合わせた「体づくり」に取り組む。②健康状態の把握に努め、嘔吐物処理研修や手洗い等の励行を行い、感染症等の予防や拡大防止に取り組む。③給食だよりや献立表で健康に良い食事や食育についての情報提供をし食育にかかわる行事を行い様子を紹介する。	①児童生徒に合わせて、運動の方法を選択し、質、量を調整することで体力作りに取り組めた。②手洗いの励行、検温・消毒等に合わせ、「手洗いプロジェクト」「職員向けの嘔吐物処理研修」を行い、感染症等の予防、拡大防止に努めた。③校内産物の活用や図書部との連携献立等、食育の推進を行い給食便りや献立表を通し情報提供を行った。	A
センター的機能の取組	①センター的機能として学校支援の充実を図る。学校、地域の関係機関と連携し、特別支援教育の専門性を広める役割を果たしていく。②校内では、コーディネーターの役割や活用の仕方を知らせ、他教職員と連携をしながら保護者の相談に応えるなどし、課題解決に向けての取組に寄与する。	①小中学校の一般級・個別支援級の支援や、地域の関係機関との連携を多数行い、センター的機能としての役割を果たした。②校内教職員との連携を常に図りながら保護者からの相談に応じるなどし、必要に応じて外部の関係機関との連携をしながら課題解決を図った。今後も高い自覚をもち、地域に貢献し、役割をはたしていきたい。	A
地域連携	①本校の掲示板やホームページ、保護者への配布物などで、近隣地域のイベント情報や本校の活動報告を行う。②休業日に本校の施設(校庭・体育館・屋上プールなど)を開放して、在校生・卒業生・近隣地域の方の余暇支援に貢献する。	①掲示板や配布物で近隣地域の情報などを発信した。感染症拡大防止のため、イベントが中止になり、ホームページで卒業生などに知らせた。②8月から段階的に学校施設(校庭・体育館)の開放を行った。利用団体には三密回避・健康観察・消毒をお願いした。	B
交流教育	①小学部と中学部において副学籍交流が円滑にすすむよう、取りまとめを行っていく。②学校間交流に関しては、より実りのある内容となるよう各学部、相手校と連携し、計画的・継続的な取組となるよう協議しながらすすめていく。	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策ということから、①、②ともに直接交流することを中止した。各学部に応じて間接的な交流ができるように窓口となり、各校と連絡調整を行い、手紙や作品のやり取りなどの間接的な交流を行うことができた。	B
安全管理	①学校防災計画の理解を深め、周知の工夫をする。一人ひとりの役割を果たせるよう、意識を高める。②日頃から安全意識を高め、全教員の共通理解のもと、連携を図りながら各自が適切な行動に結びつけられるようにする。	①ミライムを活用し、内容の確認をすることができた。また、ミライムに必要な情報を発信し、共有することができた。②不審者侵入時対応訓練では、児童生徒の安全確保の仕方や組織的な対応、誘導の流れなど具体的な動きを話し合い安全意識を高めることができた。	A
いじめへの対応	①毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見と早期対応、適切な対処や措置にあたる。②子どもの人権擁護の観点から、人権・交流教育部と校内連携を強化して学校全体で取り組み、必要であれば学校として警察などの関係機関とも連携する。	①月に1度の「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、必要に応じて情報交換の場を持ち、情報の共有化を図った。はかるこの会議を持つことができた。今後は全職員でいじめに対するより一層の意識向上のため研修を図りたい。②人権・交流教育部と連携を取り、人権研修等の研修を(三密対策を取りながら)学校全体で行った。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①現在の取組方法を継続しながら、研修内容のさらなる充実を図っていく。②グループウェア活用を進め、会議や打合せの時間を縮減し、業務の効率化を図る。③乗用芝刈り機の活用を継続していく。また、可能な範囲で外部業者への委託を行い、職員が本来の業務に専念する時間を確保する。	①月に1度の「いじめ防止対策委員会」を開催し、いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、必要に応じて情報交換の場を持ち、情報の共有化を図った。はかるこの会議を持つことができた。今後は全職員でいじめに対するより一層の意識向上のため研修を図りたい。②人権・交流教育部と連携を取り、人権研修等の研修を(三密対策を取りながら)学校全体で行った。	B
学校関係者評価	・保護者アンケートの高い回答率と高評価から学校教育目標の達成に向けてよい学校運営がされている。・コロナ禍への対応を今後の有事への備えとして活かしてほしい。・毎日の消毒作業は先生への負担が大きいのではないかと心配だ。・保護者の満足と同様に職員の満足感も大切。働き方改革は楽をすることではなく、気持ちよく仕事ができていることだと思う。・コロナ禍で授業開始が遅れたことを忘れるくらい子ども成長を感じた。子どもに合わせた指導、成長を促す指導がされている。・交流については今後も双方の理解が深まって長く継続されるとよい。		
評価結果に対する学校の見解	・来年度も保護者、職員アンケートの結果や学校運営協議会の助言を参考にしながら、よりよい学校になるように継続的に取り組んでいきたい。 ・今年度はコロナ禍に向けての様々な対応から学ぶことが多くあった。これまでの価値観をもう一度見直ししながら、大切なものは何かという視点をもって新しい取組方法についても積極的に検討していきたい。		
中期取組目標振り返り	A適切な指導について…昨年度に引き続き、研究・研修を通して専門性を高める取組ができた。また、根拠のある授業づくりにも複数年度にまたがる継続的な取組ができている。B効率的な組織運営…グループウェアの活用、働き方改革に継続的に取り組めた。特にグループウェアの活用方法については、今後のより効果的な業務遂行のために検討を進めていく必要がある。C安全な教育環境…これまでの安全管理に加え、今年度は感染症対策についても確実に取り組んできた。今後も、児童生徒、保護者が安心できる学校づくりに取り組むたい。		

紙面による学校説明会(2/9)後の2/15に資料配布形式で行われた「学校運営協議会」からのご意見等をもとに、完成版を作成いたしました。